

住化・住武相談室だより

第16号 4月10日

発行 住友化学・住化武田農薬

お客様相談室 0570-058-669

発行責任者 古津 昇

i-農カサイト <http://www.i-nouryoku.com/index.html>

目次

農家さん訪問記③	p. 1
やさしい農薬の知識 (No.9)	p. 4
オリスターA (シリーズ2)	p. 5
雑草よもやま話 (16)	p. 6
今月の推進農薬	p. 7
今月の相談内容から	p. 8
新農薬紹介「粘着くん水和剤」	p. 9
農薬あれこれ?なぜなに?コーナ	p. 10
病害虫発生情報	p. 11
農薬登録情報	p. 13
最近の「お・・美味しい!」	p. 14
コラム・そば談義	p. 15
編集後記	p. 15



「うめ(バラ科)・めじろ(スズメ目メジロ科)」

技術顧問 富樫 作

農家さん訪問記

今回の農家さんは、北海道道南の支笏洞爺国立公園に隣接した留寿都(るすつ)村の尾崎健一さん(53歳)です。まだまだ雪が多く残るようい農協・留寿都支所でインタビューしました。お話しさせて頂くと、第一印象の通り大変まじめで、かつ気さくな方でした。

ばれいしょとダイコン栽培に情熱を注ぐ尾崎さん

畑作農家 尾崎 健一さん



有珠山の大噴火で畑も数センチの降灰

ようてい農協は羊蹄山(通称:蝦夷富士)を囲む8農協が広域合併し設立されました。

この管内は畑作農業が主体ですが、リゾート地でもあり、農協からもスキーリフトが間近に見えました。スキーは5月まで出来るそうです。



昭和52年の夏の有珠山大噴火のことを覚えておられるでしょうか？留寿都村と有珠山のある洞爺湖町とは峠を隔てた隣町なので、当時は尾崎さんの畑も数センチの火山灰で覆われたとのことでした。そして、野口雨情が作詞した童謡「赤い靴」ゆかりの地でもあります。

ダイコンの販売高 10 億円突破記念に熊の木彫り

今回訪れた留寿都村は北海道の中でも大規模農家の多い所です。

農家戸数 134 戸中 86 戸 (64%) が 10~30 ヘクタール栽培しています。道の全農家数 58,000 戸中、同じ規模の戸数は 18,900 戸 (33%) に過ぎません。単純に比較すると約 2 倍です。また、30 ヘクタール以上栽培している戸数は全体の 19%あるものの、道東のような牧畜経営のための飼料用作物の栽培も含めての統計です。留寿都村では牧畜は殆ど行われていないことを考慮すると、数字以上に食用作物の大規模栽培地帯であることが判ります。

特に留寿都村は、道内随一の生食用ダイコン栽培地帯です。そのダイコンを効率よく出荷するための洗浄選別施設が、留寿都支所内に平成 11 年に完成しています。この施設では、ダイコンの洗浄から箱詰めまで自動化されており、一日 120 トンの処理能力があるそうです。尾崎さんとインタビューした農協の応接室に“ダイコンをくわえた木彫りのヒグマ”が飾ってあるのが目に止まり、お聞きすると平成 3 年に留寿都村の生食用ダイコン取扱い高が 10 億円を突破した記念に特別に作ったそうです。



尾崎さんはダイコン 4.5 ヘクタールを含め、じゃがいも、アズキ、えん麦、テンサイ、スイートコーンを合わせて 22 ヘクタール栽培しています。それを、奥様と首都圏の市場で勉強を積んでこられた息子さんの 3 人で栽培しているという理想的な経営に感心しました。(家族構成は、お父さんを含めて 4 人)

いいものをつくるため勉強会を定期的開催



連作によりダイコンやテンサイなどの作物は、土壌病害が出易いのですが、こちらは理想的な輪作経営により未然に防いでいます。そうした栽培技術を周辺農家と共有したり、また、新しい知識を更に学ぶため、尾崎さんらが世話役となって毎年勉強会を開催しておられます。その席に弊社担当者も他のメーカーさんと共に参加させて頂いているそうです。

さて、何と云っても最近の話題はポジティブリスト制度への対応とのことでした。ダイコンは洗浄選別施設のおかげで出荷時期を分散することが出来、そして安定した施設の稼働を図るため、また価格の安定や収穫時の労力を分散させるために、作付け時期をずらせて栽培しています。しかし、そうすると、どうしても一区画の面積が小さくなり、その結果、隣接する他の作物への農薬散布のドリフトの可能性が高まります。対策として、早朝の風の少ない時に散布したり、隣接する作物に残留基準のある農薬を使うように指導していることを伺いました。しかし、非常にその対応が難しく大変苦慮されているとのことでした。

じゃがいも栽培がこの産地の基本です

さて、北海道の特産と言えば、「じゃがいも」です。

全国の春植えじゃがいもの作付面積は北海道が55,000ヘクタール（65%）あります。留寿都村も例外ではありません。主要栽培品種は今でも男爵ですが、北海道で育種し昭和62年に品種登録された「北あかり」（男爵とツニカとの掛け合わせ）もこの地域の主力品種です。「北あかり」は見た目や味は一見男爵なのですが、身が少し黄色っぽくて男爵の半分以下の時間で煮える省エネ品種として注目されています。

ここ数年、東京のスーパーでも見受けることが多くなりました。品種登録されてから18年経過して、やっと消費者のニーズと品種の特性がマッチしてしてきたのと、これまでに京浜市場を中心に美味しい食べ方を提案し続けた地元の皆様の努力の成果かと思います。その証拠に留寿都支所には、村の奥様方のじゃがいも料理コンテストの賞状が飾ってありました。

ちなみに、午後の農協訪問の前に立ち寄った、レストランでの昼食メニューは留寿都産男爵のコロッケでした。



白い大地から緑の大地に・・・

インタビューが終わると、すぐに尾崎さんはテンサイの苗の世話で忙しいとのことで先に帰宅されました。

その後、インタビューのお礼も兼ねて尾崎さんのご自宅に伺ったところ、丁度奥様がハウス内でテンサイのポット苗の世話をされていました。留寿都村で見た緑は5～6センチに生長したテンサイの苗だけでした。



このテンサイの苗やじゃがいもが羊蹄山をバックにして緑に染まる様子を想像すると何だか深い感動を覚えました。

最後に、尾崎さんのご家族が我々の乗った車をいつまでも笑顔で見送って下さいました。ぜひもう一度、新ジャガが採れる秋に訪れたいという思いにも駆られました。

（鈴木・古津）

←羊蹄山の麓との景色（残念ながら頂上は曇っていて見えない）



☆ようお願い農協留寿都支所/営農販売課：齋藤課長、大西係長、三浦さんの三人のご協力によりインタビューすることが出来ました。あらためてお礼申し上げます。

[目次へ戻る](#)

やさしい農薬の知識 (No.9)

【花粉症と農薬】

各地で桜の便りが聞かれる頃になりました。東京では花粉症のためにマスクを付けた方を見受けることもずいぶん少なくなりました。幸い今年は花粉の量は少なかったようです。

さて、アレルギーは花粉症に限らず、体調によってその出方が違いますし原因物質も個人によってさまざまです。でも、アレルギー自体は悪いことばかりではありません。人間を含め動物にとって異物が体に取り込まれた時に、その人にとって不都合な異物である場合、例えて言えば体の中に警察署のような警備機能があり、その異物の手配写真を体中の警察官に送って、次に体に入って来た時に鼻水やくしゃみが出たりして、体外に排除する大切な働きなのです。

東南アジアに旅行された際、B型肝炎予防のために痛くて太い注射を打たれた方がいらっしゃると思います。この成分は免疫グロブリン (Ig) というもので外国に行く時に体内の警備を嚴重にするのです。エイズウイルス (HIV) はこの警備を混乱させるウイルスです。これらの頭文字 (I) は英語で免疫という意味です。実は私も原因物質はわからないのですが、毎年11月から2月中旬ごろまで鼻水が止まらないので何かのアレルギーだと思っています。

では、農薬の場合はどうなのでしょう？農薬についてもアレルギーを引き起こす性質があるかどうかの試験、すなわち先に述べた手配写真にリストアップされるかどうかの試験を必ず実施しています。この試験に限らず、農薬の安全性に関する各種試験はほぼ世界共通です。そのため試験を海外の試験機関で実施することも多いのですが、初めてその報告書を読んだ時に実験動物が「ギニアピッグ」とあり、アフリカの豚かと思ったらモルモットのことを英語でこう言うのでした。実験動物のなかでは最も感受性がよいことから、皮膚のアレルギー性を調べる試験ではモルモットが使われています。皮膚のアレルギー性試験では、薬剤を皮膚に何回か塗り、その数週間後に再度皮膚に塗って、その薬剤が体にとって不都合なものとして手配写真が回ったかどうかを判断します。この試験では、農薬の有効成分そのものや、農薬製剤の原液を使ってアレルギーを引き起こす可能性を調べます。その結果、皮膚にかぶれなどを引き起こす可能性が考えられる場合には、ラベルに「かぶれやすい人は取扱いに注意」と記載して注意を喚起しています。

また、ラベルには不必要な農薬の摂取や皮膚への接触を防ぐため、農薬用マスク、手袋、長ズボン、長袖の上着の着用などの注意事項が記載されています。一番皮膚に触れやすい散布剤の場合を考えてみましょう。通常、農薬製剤の有効成分は数%から50%程度です。これを1000倍かそれ以上に希釈する場合がありますね。有効成分の濃度に換算すれば、モルモットの試験の数千倍から十万倍薄い濃度になります。それでも使用者の皮膚に接触しないようにラベルに注意事項が書いてあるのです。こうしてみると、ラベルには使用方法、対象病害虫・雑草だけではなく、農薬の安全性試験の結果が全て凝縮されていると言えます。だからこそ、農薬には必ず「ラベルをよく読んで下さい」と書いてあるのです。(鈴木)



[目次へ戻る](#)

オリスターA (シリーズ2)

農業害虫防除用天敵昆虫；タイリクヒメハナカメムシ剤

<オリスターAの特性>

オリスターAの主成分であるタイリクヒメハナカメムシは、ヒメハナカメムシ類の中で比較的休眠性が浅い種類で、秋から早春にかけての日照時間が短く、気温があまり上昇しない時期でも増殖可能で、効率的にアザミウマ類を捕食します。

住友化学では、短日下においても早く成育し、次世代をたくさん産む系統の選抜を行い、オリスターAとして商品化しました。夜温が15℃以下では防除効果はやや低くなりますが、18℃以上で栽培するピーマン、シントウでは、優れた効果が発揮されます。特に西南暖地等の秋冬作の施設栽培においては、秋(9~11月)に放飼した場合、翌年の春~収穫終了(6月)まで効果が持続し、この間に薬剤によるアザミウマ防除を一度もしなかった例もあります。



<オリスターAの使用法>

オリスターAはいつ、どこに放飼(撒く)すれば良いのでしょうか?アザミウマ類の発生がまだ少ないうちに放飼するのが効果的です。しかし、発生初期を見つけるために毎日花の中や葉っぱの裏をルーペでしっかり見てアザミウマを探し出すのは大変です。実は、アザミウマを発見する簡単な方法があります。それは、ハウス内に青色の粘着板を吊り下げ、そこにアザミウマをトラップさせるのです。アザミウマが見つかった場合、それらがミナミキイロアザミウマ、ミカンキイロアザミウマであったら直ぐにオリスターAを注文しましょう。注文から2日以内にオリスターAが到着しますので、ハウス内の5~10ヶ所に点々と放飼



しましょう。でも、ヒラズハナアザミウマなら慌てずに、アザミウマが花あたり1~2頭になるまで待つてからオリスターAを放飼しても大丈夫です。その方がオリスターAの定着も良くなります。オリスターAの放飼は、7~10日間隔で行うと、より効果が高くなります。放飼する場所はハウスの出入り口や側窓付近とハウス中央部です。ただ、オリスターAだけでは全ての害虫の防除はできません。例えば、ヨトウ類が発生した時はオリスターAに影響の少ないプレオフロア

ブルやエスマルクフロアブル等の化学農薬や微生物農薬の散布、またハダニ類が発生した時はハダニ剤を組み合わせた総合防除をお勧めします。これにより、生産者の皆さんの薬剤散布回数が少なくなり、体も楽になり、今ままで防除に掛かっていた時間を農産物の収穫に回すことができます。皆さんもオリスターAを防除資材の一つに組み入れた野菜作りをしてみませんか?

(浮城)

[目次へ戻る](#)

雑草よもやま話(16)

転換大豆畑で雑草化するアサガオ類

アサガオといえば風鈴、浴衣、ヒマワリなどと共に夏の風物を代表するものの一つです。

小学生時代の夏休みに生育観察をされた方や、朝顔市できれいな花の鉢を買い求められた方も多いと思います。しかし最近、いわゆる「アサガオ」のイメージと異なった、葉の形が違っていたり、花が小さいアサガオを目にされていませんか。色々な種類のアサガオが海外から渡来し、日本に帰化していますが、このアサガオ類が最近西日本地域の畑地や水田で雑草化している事例が報告されております。



アサガオ類はヒルガオ科サツマイモ属の植物で、熱帯アメリカや熱帯アジアの原産といわれており、日本に帰化しているアサガオの仲間にはアサガオ、マメアサガオ、アメリカアサガオ、マルバアメリカアサガオ、イモネアサガオ、イモネノホシアサガオ、キクザアサガオ、マルバアサガオ、ホシアサガオ、ヨウサイ、タイワンアサガオ、マルバコウ、ルコウソウ等があります。多くのアサガオ類は1年生ですが、イモネアサガオ、イモネノホシアサガオ、ヨウサイ、タイワンアサガオは多年生です。なお属名が示すようにサツマイモもアサガオの仲間です。

榎本(1997)によれば、これらアサガオ類の日本への渡来年代は、アサガオが最も古く8世紀であり、マルバアサガオが1700年代、アメリカアサガオとマルバコウが1800年代、ホシアサガオとマメアサガオが1950年代だそうです。また清水ら(2001)によれば、アサガオは10世紀頃に中国から薬用植物として渡来し、江戸時代に観賞用に多数の園芸品種が作られたそうです。因みにアサガオの英名は **Japanese morningglory** と付けられています。



わが国の大豆畑の雑草として確認されている(徐ら、2005)のはアサガオ、アメリカアサガオ、マルバアメリカアサガオ、マメアサガオ、ホシアサガオ、マルバアサガオであり、前年に水稻を栽培した圃場ではアメリカアサガオとマメアサガオの発生が認められています(平岩ら、2005)。福見ら(2005)によれば、子葉展開期に湛水するとアメリカアサガオ、マルバアメリカアサガオは死滅し、マメアサガオは生き残るものの生育は抑制されるそうです。一方平岩らは、水田でのアサガオ類は中干しの時に発生し、その後湛水しても枯死せず、水稻収穫後に種子を生産することを報告しています。

水稻栽培中に発生したアサガオ類の防除方法は現在不明で、今後の研究が待たれます。

(岩崎)

*写真は、青木繁伸氏の「[植物園へようこそ!](#)」から使用させていただきました。

[目次へ戻る](#)

今月の推進農薬

抵抗性雑草に効く2つの水稲除草剤

ドニチS 1キロ粒剤とイッテツジャンボ剤

春先、雪どけ後に耕起前の水田でセリを探し、おひたしにして春の味を楽しんでいましたが、最近ではセリを見つけるのが困難になっています。

スルホニルウレア（SU）剤等の効果の高い薬剤が普及したお陰で姿を消した種類も多くあります。しかし、発生する雑草の種類が異なっても、発生や被害は変わっていません。これはSU抵抗性雑草の発生や、より防除の困難な種類が増えた結果です。除草剤もこれらのSU抵抗性雑草に有効な剤や、難防除雑草に有効な剤で、より使いやすいタイプの新農薬が発売されてきました。

弊社では、SU抵抗性雑草や難防除雑草対策として「ドニチS 1キロ粒剤」を発売しております。この剤は、住化



武田農薬が開発したイマズスルフロンと、ヒエの2.5葉期まで有効なフェントラザミドと、ホタルイ等に効果の高い住友化学が開発したプロモブチドを配合し、SU抵抗性雑草や広い範囲の難防除雑草に有効です。又、イネに対する安全性が高いため、移植直後～ノビエの2.5葉期まで使用できます。省力的な防除方法として、田植同時散布ができます。大規模水田での利用が便利です。

「イッテツジャンボ」は、イマズスルフロンと、ノビエの2.5葉期まで有効なカフェンストロールと、新成分のベンゾピシクロンにより、SU抵抗性雑草や難防除雑草に対し高い効果を発揮し、ノビエの2.5葉期まで幅広い使用適期があります。手投げのできるジャンボ剤（パック剤）です。10アールの水田では田んぼの中に入らず、あぜからパックを10個投げ入れるだけです。パックが溶けて、有効成分が水田全面に広がり効果を発揮します。小規模の経営でも適合します。

ご使用に当ってはラベルを一読して頂き、今年の水田の除草対策にお役立て下さい。

（富樫）

[目次へ戻る](#)

今月の相談内容から

同じタチガレン剤なのにどうして混用に違いがあるの？

質問

水稻の育苗箱で発生するクモノス病に使用するダコニール1000と苗立枯病防除のタチガレン液剤との混用及び近接散布はだめで、なぜタチガレエース液剤では良いのですか。

回答

ダコニール1000は、は種前時に育苗箱に灌漑し、リゾープス菌による苗立枯病（クモノス病）に効果を発揮します。

ダコレート水和剤は同じ処理でリゾープス菌・フザリウム菌・トリコデルマ菌による苗立枯病に効果を発揮しますが、両剤ともタチガレン液剤との混用・近接散布は避ける注意事項があります。

これは当時、試験場で薬害の事例があり、現在まで注意事項の記載がありますが、タチガレエース液剤との混用・近接散布では薬害事例は無いため、注意事項の記載はありません。このため、ピシウム菌・フザリウム菌による苗立枯病との同時防除ではタチガレエース液剤をお勧めします。

（富樫）



北海道・留寿都村の直売所

1キロ 500 円
で小豆も販売

[目次へ戻る](#)

新農薬紹介

粘着くん水和剤

果樹のハダニ・アブラムシ防除にデンブンプンが効く

粘着くん水和剤は、天然由来の食用デンブンプンを有効成分にしています。

そのため、人畜や環境にやさしい殺虫・殺ダニ剤です。対象害虫はハダニ類、アブラムシ類などの微小昆虫類にのみ効果を示すので、ミツバチなどの受粉昆虫や大型天敵昆虫などへの悪影響はほとんどありません。

また、虫体を被覆することによる窒息や粘着効果により殺虫効果を発揮させるので害虫の薬剤抵抗性発達のおそれがなく、化学農薬に抵抗性を発達させた害虫に対しても安定した効果を示します。

本剤は日本農林規格（改正JAS法）の定める有機農産物の生産にも使用可能な防除資材として認定されており、近年注目される環境保全型農業やIPM（総合的病害虫・雑草管理）などの流れに沿ったものと考えられます。

上手な使い方は、発生初期の防除が基本です。ハダニ類の卵に対する効果はなく、多発したアブラムシ類にも効果が劣る場合があります。葉裏の害虫に十分薬液がかかるように散布してください。理由として、直接害虫にかかれば効果がありません。

発生の多い時は連続2回（5～7日間隔）散布するか、他剤とのローテーションでご使用ください。

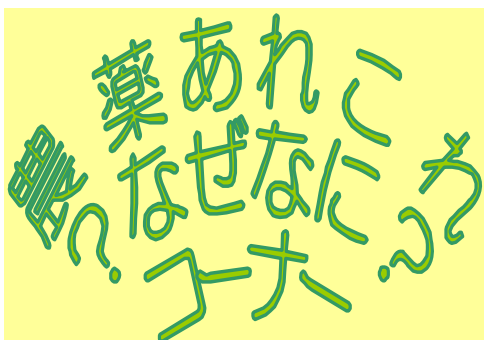


適用内容と使用方法

作物名	適用害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	総使用回数	使用方法
かんきつ	ミカンハダニ	500～1000	200～700L/10a	収穫前日	*6回以内	散布
	アブラムシ類	500				
りんご	ハダニ類					
なし	アブラムシ類					
いちじく	カンザワハダニ					

*本剤およびデンブンプンを含む農薬の総使用回数（古津）

[目次へ戻る](#)



よく効く薬剤ってどうやって選ぶの？

ご質問

作物を育てていると、いろいろな虫がついたり病気にかかったりします。こういった時に作物を守るには虫自体を取り除いたり、病気にかかった部分を取り除いたり、いろんな方法があると思います。薬剤を使う方法もあると思いますが、何か病害虫が発生した場合に、有効な薬剤をどうやって選択したら良いのでしょうか？

薬剤を使うには、その虫が何なのか、どういう病気なのかかわからないと選べないと思います。分かりやすい虫とか病気ならいいのですが、なかなか素人目には、判断が難しい場合もあります。そんな場合はどこに相談したらいいのでしょうか？

お答え

相談される場所としては、各県の指導機関と、農薬を販売している所に大別されます。

指導機関としては、農業関係の試験研究機関〔農業研究センター、農業技術センター、農業試験場など（各県により呼称は異なります）〕と、地域ごとに設置されている農業指導機関〔農業改良普及センター、農林事務所、農林振興センターなど（各県により呼称は異なります）〕があります。

農薬を販売している所としては、農協（JA）、農薬販売店、ホームセンターなどがあります。それぞれ、身近なところでご相談されるのがよいと思います。

なお相談される際には、発生している虫や、病気の付いた葉などの現物を持参されるか、デジカメなどで虫や病気を撮影された上で、ご相談されることをお勧めします。



（佐伯、稲葉）

[目次へ戻る](#)

病害虫発生情報

3月に各県から出された病害虫注意報・特殊報から、主要なものをお知らせします。

タバココナジラミ バイオタイプQ

トマト他：栃木・佐賀県

シルバーリーフコナジラミ（バイオタイプB）との形態による区別は、現時点ではできません。従来のコナジラミ防除薬剤に対しては、感受性が低い系統ですが、ベストガード剤の効果は、このQタイプでも優れているという試験報告があります。

コナジラミ類の防除は、薬剤による防除だけではなく、施設の開口部に防虫ネット（0.4mm目以下）を張るなどの対策も同時に行うことが必要です。

3月末現在15県で特殊報が発表されており、九州から関東まで広まってきております。

いちご

○ハダニ類：福岡県

多発生になると防除が困難となるので、発生を見たら直ちに防除してください。

寄生した株のかぎ取った下葉や除草した雑草は、放置せずに速やかに処分してください。

オサダンフロアブル・水和剤やロディー乳剤など、異なる系統の薬剤でのローテーション散布を心がけてください。



いちご・ハダニ類

○イチゴコナジラミ：長野県

北アメリカ原産で、北海道、本州、四国に分布しており、長野県では初の確認です。

寄主植物の範囲は広いですが、これまで、いちご以外では問題になっていません。

コナジラミ類で登録のある薬剤で防除してください。

果菜類



○灰色かび病：宮崎県

最適温度が15～23℃と比較的低温で多湿条件を好む菌です。ハウス内の温度・湿度管理に十分注意してください。

早期発見・早期防除に心がけ、作用性の異なる薬剤のローテーション散布を行ってください。

スミレックス水和剤、ベンレート水和剤、ゲッター水和剤、スミブレンド水和剤などの薬剤をローテーションの一剤として、お勧めいたします。

もも

○モモハモグリガ：山梨県

越冬成虫は展葉まもない葉に産卵しますので、落花期の薬剤防除を徹底してください。

幼虫の葉への食入を見つけたら早急に防除を実施してください。

防除薬剤としては、ダントツ水溶剤、アディオオン・ロディー水和剤などがあります。

かんきつ

○かいよう病：長崎県

発病枝や葉を除去し、発芽前までに銅水和剤を散布してください。

その後は、バリダシン液剤やストレプトマイシン剤でのローテーション防除を実施してください。



かいよう病

トルコギキョウ

○トルコギキョウ葉巻病：静岡県

トマト黄化葉巻病の病原ウイルスと同じで、シルバーリーフコナジラミにより媒介されます。ベストガード水溶剤での防除をお勧めします。

○えそ輪紋病：群馬県

ネギアザミウマにより媒介されるアイリス・イエロー・スポット・ウイルスにより発病します。罹病株は伝染源になるので、見つけ次第抜き取ってください。

施設開口部を寒冷紗や防虫網で被覆し、ネギアザミウマの侵入を防いでください。

きく、かんしょ、ひまわりなど

○アワダチソウゲンバイ：静岡県

この虫に対する登録薬剤はありません。

周辺のセイタカアワダチソウなどキク科雑草の除草を徹底してください。

パンジー

チビクロバネキノコバエ

○チビクロバネキノコバエ：神奈川県

幼虫の食物となる腐食物の裏側に産卵するため、培土や床土への有機物の多量施用を控え、堆肥を使用する場合は完熟のものを使用し、大きな塊ができないように土壌とよく混和してください。

パンジーでは本害虫に対する登録薬剤はありませんが、ベストガード水溶剤はポインセチアで、本害虫に登録があります。

デンファレ

○ランツボミタマバエ：宮崎県

棚下の地表部にマルチを張り、蛹化場所を被覆します。

被害蕾や地上に落下した蕾は速やかに除去し、幼虫の広がりを防止するなどの対策を実施してください。

(稲葉)

[目次へ戻る](#)

農薬登録情報

3月度適用拡大内容

薬剤名	変更点	作物	病害虫名	使用量	内容
パダン粒剤	作物追加	ひえ	アワノメイガ	4kg/10a	収穫 21 日前まで、2 回以内、散布
		ふき	フキノズイバエ	6kg/10a	収穫 7 日前まで、2 回以内、散布
アグロスリン 乳剤	害虫追加	きゅうり メロン	トマトハモグリバエ	1000 倍	
		キウイフルーツ	キウイヒメヨコバイ	2000 倍	
	害虫名変更	あずき	ノメイガ類		フキノメイガ ノメイガ類
ベンレート 水和剤	使用時期 変更	水稻(箱育苗)	いもち病		は種時～は種 7 日後頃
	使用回数 の設定	くり			本剤及びベノミルを含む農薬の総使用回数:「-」 4回
ポリオキシシン AL 水溶剤	使用時期 使用回数 の変更	レタス			使用時期: 収穫 21 日前まで 収穫 14 日前まで総使用回数: 5 回以内 3 回以内
	使用方法 の追加	キャベツ			使用時期 「は種覆土後」と「子葉展開期以降」に、使用方法 「1㎡当り3L 灌注」を追加

(佐伯・稲葉)



晴れた日の羊蹄山

[目次へ戻る](#)

最近の「お・・・美味しい!!!」

弊社相談室紅一点!の佐伯がお送りします
 最近の「お・・・美味しい!!!」の目(笑)で、
 女性の目・主婦の目・はたまた酒呑み??の目(笑)で、
 毎月「これぞ!」というものを紹介します。
 どうぞお楽しみに♪♪



「さあ！お花見の季節です！」

待ちに待った年に一度のサクラの季節……。やっと本格的に春を感じる季節がやってきました。(北国の方はもうちょっと先ですね！一足先に失礼！)

今年も、仲間と集まってお花見をしてきました。東京の上野公園は、この日ちょうどサクラが満開で、天気も申し分ない晴天。まさにお花見日和でした。「花よりだんご」ではないですが、こういう時のお弁当は本当においしいですね。基本的にこういう集まりの場合は「持ち寄り」が原則。手作りのものはもちろん、「これは！」と思うものを買ってきて差し入れする・・・とにかく何でもOKなのです。



サクラ満開の上野公園です。

それじゃあ「いただきまーす！」



この時ばかりは皆、いつも以上に張り切るみたいで、「おいなりさん、焼きそば、卵焼き、枝豆、茹でたスナックエンドウ、南瓜の煮付け、ブリカマの煮付け、唐揚げ、焼き鳥、おむすび、三色だんご、手作りおはぎ、いちご・・・」と、一体どれだけ食べるの?というくらい、食べ物(むしろ肴・・・?)が充実しました。いや～今年もサクラは見事だったし、楽しかった(美味しかった)なあ・・・。

お花見がこれからの皆さんはどうぞ十分春を満喫してくださいね!

(佐伯)

[目次へ戻る](#)

コラム・そば談義

最近、そば打ちが上達しないどころか、段々と我流に陥っている。

そして、いつのまにかそれが癖になりつつある。このことは、決してそば打ちだけに限ったことではない。何ごとにも通じることだが、要は基本がおろそかになると“いざという時に”キチンと出来なくなる。

そこで、そば職人が打つ姿をじっくり見てみたいと思っていた。早朝、車で人気の蕎麦屋の前を横切った時、ガラス窓越しにそばを打つ姿がチラッと見えた。意を決めて日曜の朝7時頃、こっそり覗きに行った。案の定、三十代半ばと思われる職人さんが黙々とそばを打っていた。私のことなど全く眼中にないかのように黙々とである。(多分、私みたいに観に来る人も結構いるのだろう。)ところで、この時間帯からだ、作業始めは朝の5時ぐらいからだろう。

さて、よく観察するうちに色々と参考になった。例えば、一回ずつ最初から終わりまですることはなく、鏡餅のようにこねたそばの生地をラップで包んで置けば、あとはそれを次々とのして切るればよいとか、他にも、麺棒でのすとき生地が少々破れても食べるそばに影響ないとか、それよりも手際よく終えることなど。また、のすときの要領や、包丁の持ち方なども非常に勉強になることが多かった。そして思ったことは、そば職人だからといって、特に変わったことをしているわけではない。同じやり方をキチンと基本に沿ってやっているだけなのである。要するに、そば打ちは「生地を乾かさないように素早く仕上げられる」かが勝負であると改めて実感した。そこで、また迷った時は覗きに来ようと密かに思う。

その日のお昼は、お礼という訳ではないが、家族でその蕎麦屋さんの暖簾を潜り、今朝観ることが出来たそばを美味しく戴いた。ところで、お客様相談室もこのように、時々基本に立ち返り、お客様と接しようとする気持ちを引き締めているところである。

(古津)

「甚五郎」東京都立川市幸町 5-53-1

TEL 042-537-0956

[編集後記]

東京では、そろそろ桜が散りつつあります。しかし、例年に比べて何だか肌寒い日が多いように思います。

さて、手前味噌のところもありますが「i-農力サイト」もかなり充実してきました。本誌の連載記事をピックアップしたコーナーを設けました。最初に「IPMの現状と今後」を掲載しました。これからも連載の終わった記事から順次ご覧になれるように致します。

話は代わりますが、4月に入り益々農作業が忙しくなることと思います。健康には十分注意され、農繁期を元気に無事に乗り切ってください。



[目次へ戻る](#)